

7 月 1 日（日）学年代表者会が開催されました

昭和 17 年卒からこの春に卒業した若い学年までの代表者が「さいかち坂校舎」に集まりました。数えてみますと 71 年にわたる卒業年度の幅で、戦前戦後そして昭和から平成にわたる東京歯科大学の変遷を熱く見守ってきた 61 名の先生方が、これからの歯科医を育むさいかち坂新校舎で一同に会する記念すべき企画となりました。

各自自由に新校舎見学の後、午後 1 時より佐瀬同窓会副会長の開会、金子理事長のご挨拶、矢崎会長挨拶で平成 24 年度学年代表者会の幕が切って落とされました。

第一部は大学関係の報告として井出学長、石井副学長、一戸水道橋病院長からスライドを使って、「大学移転について」、「学事について」、「水道橋病院改装について」わかりやすい説明をいただきました。事前質問の回答も報告で触れていただきましたが、さらに金子理事長より詳細な“まとめ”をいただき、今歯科大学を取り巻く厳しい状況、そしてその中でがんばっている母校の姿を理解することができました。

第二部は同窓会部門で、高橋専務の会務報告から始まりました。矢崎執行部の重点課題である若手同窓との連携推進について、“平成 25 年度に向かったの構想”として紹介され、それをバトンタッチして若手ネットワーク委員会の佐々木葉子先生よりの“同窓会活動への参加”、そして“なぜ支部加入か”の熱いスピーチに、出席された同窓は心を一つにして聞き入りました。雰囲気盛り上がったところ、宮地副会長による「同窓会の未来と期待」と題するディスカッションが繰り広げられました。ここでは卒後 10 年程度までの若い先生方から貴重な意見を多く聞くことができました。その内容は別の機会に譲るとして、ここでは東京歯科大学卒業の若い先生方が、理路整然、自分の意思・意見を明確に述べる、その姿をみまして 120 年の歴史を誇る東京歯科大学が生んだ若者はこれからも歯科界を必ず背負ってくれるのだと、先輩方々一同強く確信していたと報告しておきます。

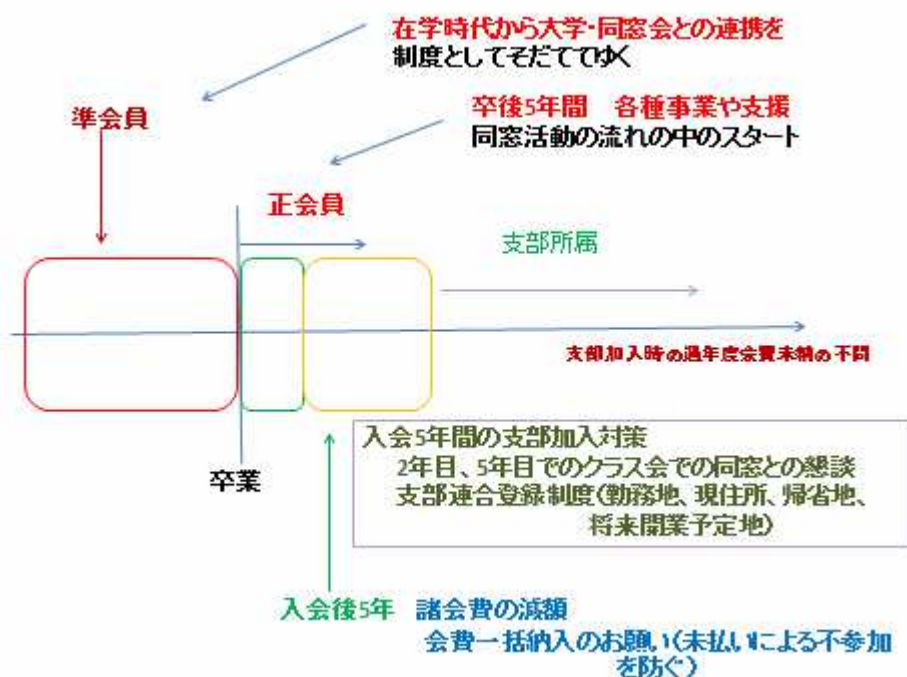
“若手同窓との連携推進事業構想”のプレゼン内容

今後いろいろな修正がなされる予定ですが、平成 25 年実施に向かったの構想として学年代表者会ではスクリーン上に目に見える姿で紹介されました。

まず準会員制度を導入し母校在校生、他校卒業の大学院生や臨床研修歯科医等を対象にして、大学と同窓会との絆の深さをみてもらいながら同窓会の認識を深め、各種セミナーなどのお誘いをしていきます。今まで卒業後、同窓会のことを気づかず過ごす若手同窓も、入学の早い時期から同窓の心を伝えることで、卒業する頃には同窓会が身近なものとして認識することでしょう。同じ故郷出身の在校生と今から交流をとりたいという支部からの声も、在校生の県人会に出席するなどしていけば自ずとその道は開かれるのではと思っています。

卒業後の構想もあります。卒後 5 年間、できるだけ一人ひとりの同窓に近い位置で本部が面倒を見ていくというプランです。歯科医としての人生を同窓会活動を色濃く感じながらスタートしてもらえよう、学術、保険、その他優秀な人材をそろえる事業推進部が若

い人を応援します。支部の加入も推進します。この期間、会則で定める「支部加入の義務」を「原則支部加入」と緩和し、その間本部管轄のもと、勤務地、住所地、故郷、将来の開業先など自分で決めて、それを該当地域支部連合会に登録する支部連合登録制度を考えました。節目の卒後2年目、5年目とかにクラス会を開きます。その機会を利用して学術・保険研修はもちろん、就職や医事相談も、そして支部の加入について話し合う機会を作ろうかと思っています。さらに、若い世代の会費の減額も計画の中にあります、そして5年一括払いの提案もあります。現在支部加入の少ない若い世代ですが、若い人の希望も聞きながら新しい道を一步一步さぐりながら歩んでいこうと思います。



寄付、よろしくお願ひします

各地域で総会、支部長会も多く開かれています。ここのところ矢崎会長は毎週のように出張し、各地でご挨拶、会務の報告をしております。そして、もちろん新血脇記念ホールの寄付のお願いもしております。そのおかげで寄付の人数、額が大きく伸びる支部や地域支部連合会も目立つようになり、執行部一同こころから感謝する次第であります。現在、**1億7,023万5千円(6月23日時点)**まで到達しました。額については是非5億円達成を同窓各位にお願いいたしますが、人数についても何卒同窓一人ひとり寄付にご協力いただくようお願いいたします。今のところ約一割の先生からご協力いただいております。毎年会費を頂いている人数の5000人を超える6000人の同窓からの協力を目指しています。一口(2万円)でも結構です。一人でも多くの同窓が寄付の協力をしていただくことをお願いいたします。目標達成して来年の新血脇ホールの竣工を迎えたいと願ひますし、来年の評議員会は是非大きな気持ちをもって新血脇記念ホールで開催したいものです。

県人会訪問

関係記事がつづきます。若手同窓特集ということでご容赦を。今期新設した大学連携委員会発の“県人会へのアプローチ”提案、6月29日（金）錦糸町で四国県人会が開催され、そこへ同窓会広報委員会委員長臼田先生が突撃取材に行きました。支部とともに育ってきた東京歯科大学同窓会、その支部からの声、ふるさと出身の在校生、故郷出身の卒業生とのつながり、故郷出身の若手同窓が戻ってくることで、この取材からまた可能性が広がると期待しています。内容詳細は同窓会報8月号をお楽しみに。

信越地域支部連合会総会開催

6月30日（土）平成24年度信越地域支部連合会総会が新潟のホテルイタリア軒で開催されました。高垣順吉前連合会会長の急逝のあと、阿部晴弘新連合会会長が遺志を受け継ぎ新潟県支部、長野県支部の連携強さを支えに、盛大に実りある総会を執り行いました。総会前の支部長会では、評議員選出の経過措置について、寄付について、若手同窓との連携推進について、長野県北信支部支部長小宮山能康先生、中信支部支部長飯島和彦先生、東信支部支部長土屋栄良先生、南信支部支部長池田守人先生、新潟県支部支部長阿部晴弘先生から忌憚のないご意見を賜りました。予定時間を延長してまでの熱い議論の交換で、今回執行部から出席した浮地副会長、高橋専務ともども詰まるところもありましたが、今後の会の執行にとってはとても貴重なご意見であり、今後の課題としていく所存です。

「出沒！アド街ック天国」報告

前号で放映予告として紹介しましたが、見た感想が届いています。「ずっと待っていたのにチョットだけ」、「日大ばかり」、「7位じゃね」、「30秒だけの放映」といろいろな声が聞こえてきました。6月23日（土）午後9時からTV TOKYO 7ch で「出沒！アド街ック天国」で神田三崎町が放送され、順位をつけ各所を紹介しました。水道橋病院も紹介されましたが、結果は7位に終わりました。歯科界では日本一だけど、社会の全分野、無差別級だと7位ということでここはひとつ我慢をしましょう。しかし、すべて水道橋に移転してきたら、もうゆるさないということで。

<http://www.tv-tokyo.co.jp/adomachi/backnumber/20120623/70618.html>

さて、古いお店がずいぶん紹介されました。水道橋で卒業の同窓にとってのベスト3は、やきとりの“後楽”、スペシャルランチの“味楽”、そして何と言っても〇〇〇（〇は各自で思い出して！）ではないでしょうか。“トミーグリル”は今でも営業中で、理事会・委員会等の後にしばしば利用しています。

（情報ネット推進会議発）



学年代表者会



学年代表者会



矢崎会長挨拶



高橋専務の会務報告



佐々木委員のプレゼン



宮地副会長（協議）



参加者からの発言①



参加者からの発言②



参加者からの発言③



参加者からの発言④



参加者からの発言⑤



浮地副会長（閉会）



四国県人会



信越地域支部連合会支部長会



信越地域支部連合会総会